

地質調査所長

石原 舜三 氏

SEG Silver Medal

受 賞

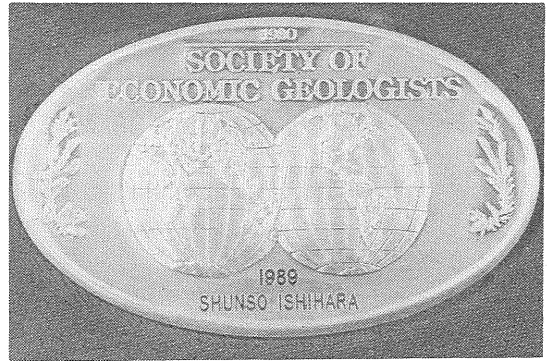


写真1 Silver メダル (表, 左右7.8cm)

地質調査所長の石原舜三氏が、SEG (Society of Economic Geologists) の1989年度 Silver メダルを受賞した。この賞は、SEG の Penrose メダルやリンドグレン賞と共に、鉱床学分野の最も権威ある賞のひとつで、とくに独創的な研究に対して授けられる。1981年にこの賞が創設されて以来、8人の研究者がこの榮譽に輝いたが(一覽表参照)、9人目の石原氏はアジア-ヨーロッパ地域では初めての受賞者である。また、氏にとっては、日本鉱山地質学会の加藤武男賞(1982年)および日本地質学会の地質学会賞(1988年)に次ぐ受賞となる。

これら一連の賞は、1956年に石原氏が地質調査所に入所して以来たずさわってきた多方面の調査研究および学会活動における業績に対して授与されたもので、とくに花崗岩系列の提唱と鉱化作用との関係の体系化が、Silver メダルの主な受賞対象となった。昨年(1989年)11月アメリカ合州国のセントルイスで行われた受賞式では、大本洋氏(東北大学)が石原氏の略歴と業績を紹介した。ウィットとユーモアに富む英語のニュアンスをここで完全に再現することは困難であるが、大本氏の了解を得て、その一部を紹介しよう。

SEG Silver メダル受賞者一覽

年	受賞者	国
1981	B. J. Skinner	米 国
1982	A. J. Naldrett	カナダ
1983	J. D. Lowell	米 国
1984	D. F. Sangster	カナダ
1985	R. W. Hutchinson	カナダ
1986	R. Woodall	オーストラリア
1987	J. J. Hemley	米 国
1988	C. R. Anhaeusser	南アフリカ
1989	石原舜三	日 本

石原舜三氏の略歴と業績

大本 洋

1989年の Silver メダル 受賞者に石原氏が選ばれたことは、氏を尊敬する者としてまた友人として、喜びに堪えません。SEG の Silver メダルは、鉱床学の分野でとりわけ優れた業績を挙げた人に贈られるものです。石原氏は地質調査所の所長であり、また SEG のアジア地域会長でもあります。花崗岩質マグマとそれに伴う鉱化作用の成因に関してなされた石原氏の独創的かつ重要な科学的貢献が本学会から表彰されるわけですが、その研究の重要性を解説する前に、彼の略歴を簡単に紹介したいと思います。

石原氏は、11歳の時に広島で、あの原爆の証人となりました。もし彼があと数 km 市の中心部近くに住んでいたら、今日の彼は無かったのです。広島大学を卒業後1956年に地質調査所に就職して、彼が最初に携わった仕事は、日本のウラン鉱床探査でした。爆弾の製造ではなく原子エネルギーの平和利用を目的としたものであった事はもちろんですが、不思議なあるいは皮肉な運命の巡り合わせと言えるかも知れません。

花崗岩中のモリブデン鉱脈に伴うウラン鉱床の研究が、結局は約20年後に、花崗岩類と鉱化作用に関する新しい学説に行き着いたのだ、と彼は語ってくれます。最初のウラン特別研究が地質調査所本報告「日本のウランの産状」の出版をもって終了した1961年に、彼はアメリカ合州国に留学しました。コロラド鉱山大学の大学院に1年いて、コロンビア大学の修士コースに移り、A. Pooldervart, F. Kulp 両氏などの影響を強くうけました。夏休みには、ニューメキシコ州 Questa 鉱山のモリブデン鉱床を研究し、1963年には修士号を獲得しました。1964年に地質調査所に戻った後もモリブデン鉱床を始めとする花崗岩類に伴う鉱床の研究を続け、1970年には東京大学から博士号を授与されました。

その後、1978年に鉱床部鉱床研究課長に、1983年には

企画室長に、また1985年には鉱床部長に昇任され、1987年から2年間仙台の東北工業試験所長を勤めた後、1989年夏所長として地質調査所に戻って来られました。たいの科学者は管理業務の地位に就くと研究を止めてしまうものですが、石原氏の場合は違っていました。彼は一貫して研究に活発であったのです。

鉱床学に対する彼の重要な貢献のひとつは、1974年の「Geology of Kuroko Deposits」の出版でありました。この編集に4年を費やしたそうです。この本は、黒鉱鉱床に関する最初の総括的な英文書籍であり、出版後今まで火山性塊状硫化物鉱床の最も重要な文献として鉱床の研究者に広く用いられ、また塊状硫化物鉱床の探査にも数多くの貴重なヒントを与えてきました。しかし、彼の研究上の最も重要な貢献は、花崗岩類に伴う重金属鉱化作用のタイプに対する花崗岩質マグマの起源物質の意義について新しい理論を展開したことにあります。1975年に出版した最初の論文のなかで彼は、鉄の酸化物に基づいて、花崗岩類が磁鉄鉱を含む系列と含まない系列に分けられ、CuやMoは前者に、WやSnは後者に伴う傾向のあることを提唱しました。

偉大なアイデアが、しばしば異なる科学者によってほぼ同時期にしかし独立に生み出されることがあるのはたいへん興味深いことです。彼が原稿を準備していた頃、日本の南にあるやや大きい島（オーストラリアの事-編者注）では、B. ChappellとA. Whiteが同様のアイデアを發展させていました。それは、花崗岩類のI-type/S-typeの分類として今日知られているものです。石原氏とB. ChappellとA. White両氏の学説の意義は、花崗岩質マグマがさまざまな地殻物質から生成される事、さらには起源物質の違いが花崗岩類とそれに伴う重金属鉱床の岩石化学的特徴を規定している事、を認識したことにあります。（中略）石原氏の学説は、鉱床の広域分布に関する

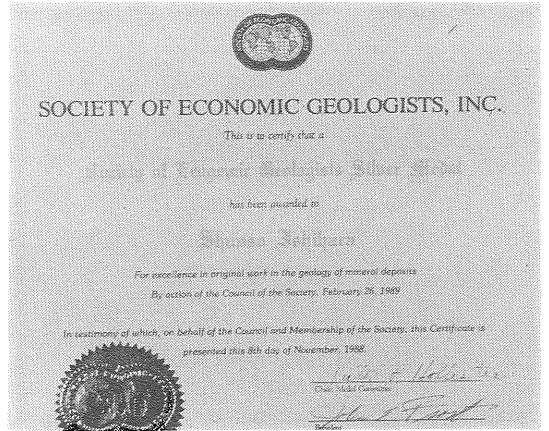


写真2 石原氏に贈られた Silver メダル表彰状。

長年の疑問、すなわち、Cu・Mo・WおよびSnの鉱床が地殻のなかに不規則に散在するのではなく、明瞭に別れた集合あるいは帯をなして規則的に分布するのは何故か、という疑問にも見事な解答を与えました。また彼のモデルは、火成活動に伴うAu・Cu・Mo・W・Snおよびレアメタル鉱床の実用的かつ有用な指針を与えたのです。

石原氏はスポーツマンで、とくに野球やサッカーが得意であります。もしも日本にプロのサッカーリーグがあったなら、一順目で指名されたであろうに、と語ってくれた事があります。大観衆の前で競技するという夢がかなえられなかったのは、彼にとって恐らく不運な事だったのでありましょう。しかし、彼が第二の道すなわち地質学を選んできたことは、私たちにとって、このうえなく好運であったと言わねばなりません。

SEGの会長および会員の皆さん、私は、友人や後継者を代表して1989年のSilverメダル受賞者である石原氏の紹介をさせていただけた事を、大きな喜びとするものであります。

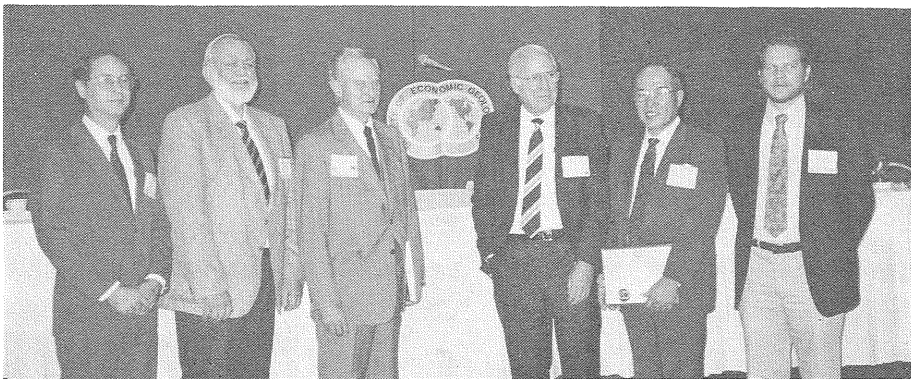


写真3 1989年 SEG 学会賞受賞者たち。左から S. Kesler (ミシガン大学, SEG 役員), D. A. Pretorius (ウイットウォーターランド大学, Penrose メダル), P. Sims (功労賞), J. E. Frost (SEG 会長), 石原舜三 (地質調査所, Silver メダル), M. McKibben (ペンシルバニア州立大学, Lindgren 賞)。Lindgren 賞は35歳以下の若手に、功労賞 (1989年新設) は学会運営に功績のあった人に贈られる。